

神戸昇天教会月報

〒652-0015 神戸市兵庫区下祇園町39番7号 神戸昇天教会

牧師 小南 晃 電話 (078) 361-4490

FAX (078) 361-4539

http://nssk-kobeshoten.org/ 振替口座 01110-2-10517

今年の標語

「来てみませんか？」と誘える教会を目指そう。

努力目標

◎信仰的学びの機会を増やす。

◎地域との交流促進。

◎神戸昇天教会リーフレットの作成。

聖語 喜ぶ人とともに喜び、泣く人とともに泣きなさい。(ロマ12:15)

クリスマスに備えて ～目覚めるべき時～

だから、目を覚ましていなさい。いつの日、自分の主が帰って来られるのか、あなたがたには分からないからである。(マタイ24:42)

司祭 ミカエル 小南 晃

今年丁度、12月1日(日)から降臨節に入りました。この季節は一言で言えば「待つ」季節です。何を待つかというと、まずは12月25日の降誕日を、私たちがふさわしく迎えるために、思いと言葉と行いを正して備えようというものです。

そして今一つ、この降臨節の待つこととは、主キリストが再び世に来られるのを待つという意味があります。この再び主が来られる時のことを、再び臨むと書いて「再臨」と申します。そしてこの主キリストの再臨の時とは、神の御心が成就する時、天の国の到来の時であり、全ての涙が拭かれて、永遠の命と喜びに満たされる時であります。そして私たちキリスト者はまさにその時を待っている者であります。

目を覚ますべきこと

しかしこの「再臨」の時とは、同時に世の終わりの時であり、神に背く者には審きの時であることを聖書は記しています。そして降臨節とは、それらのことを思い起こす時とも言えます。というのは、私たちはともすればこの世の様々な欲望や思い患いとらわれているうちに、まるで眠り込むように、それを忘れてしまうからです。そこで今一度、

そのことを思い出す、言わば「目を覚ます」ことが、降臨節という季節の目的でもあり、この季節のモットーとは、冒頭の聖句マタイ24:42の「目を覚ましていなさい」ということになるでしょう。

そこでこの降臨節には、主の再臨を思い起させる聖書箇所が多く読まれます。しかもそれは天の国の到来という喜びにあふれた情景としてよりも、それを忘れて迎える時の破局を警告する、どちらかと言えば恐ろしい描写の箇所が読まれます。冒頭の聖句の直前には、「その苦難の日々の後、たちまち太陽は暗くなり、月は光を放たず、星は空から落ち、天体は揺り動かされる。(マタイ24:29)」と宇宙全体の破局が描かれています。

より大きな危機の前に

聖書に登場する、こうした世の終わりにおける、恐ろしい破局の情景には拒否感を感じるかも知れません。しかし私たちは、より大きな危機、困難、試練に直面した時に、それまで感じていた種々の不平や不満が、その大破局に比べたら小さな悩みでしかないものとして、吹っ飛んでしまう経験をされたことはないでしょうか。

例えば、人間関係であの人、この人とうまくいかず、気分が塞いだり、恨みに思ったりしている。しかしそうした時に、例えば愛する家族や子供が命に係わる大病か怪我をしたら、そんな不満や恨みはどこかに吹っ飛び、ただひたすら愛する者の為に懸命に働き、祈ることになるのではないのでしょうか。

私たちが不平や不満、また思い患いに埋没している時、より大きな危機の前にいることを忘れていたのです。そして私たちの本来の危機とは、私たちが、神の前には滅びるしかない罪人であるということです。

喜びの降誕日のために

しかしその私たちが滅びから救われているという恵みを受けているということ。そしてその恵みを与えて下さっている方こそ、世に来られた、主イエス・キリストなのです。そしてそのことに気づくことが「目を覚ます」ことであり、そして目を覚ました生き方とは、神に愛され、許された者として、そして隣人を愛する者として生きることによって努めることだということです。

クリスマス・降誕日を前にして、共に目を覚まし、いつでも主イエス・キリストの前に立てるよう、主を愛し、隣人愛に生きる努力をして参りましょう。

「マラナ・タ！」

主よ、来たりませ!

定例集会

日 午前7時 早朝聖餐式
" 9時15分 教会学校
" 10時30分 聖餐式・説教
午後6時 夕の礼拝

火 午前10時30分 聖書研究会
土 午前10時30分 教会掃除
(ご奉仕をお願いします)